

今年度の長野青年会議所は、自分たちの判断や決断が未来に資することなのか常に問いながら、事業を計画し実施します。具体的には、西鶴賀地域の活性化、アフターコロナに向けたグローバル意識の活性化、持続可能な地域を創造するための企業家精神の養成、社会人基礎力に重きを置いた青少年育成を計画しています。また、対内的には会員拡大と会員の質向上、効果的な広報に努めていきます。

## スローガンは「PAY IT FORWARD」

—— 2022年度長野青年会議所は、どんな方針で活動されていきますか。

中川 長野青年会議所（以下長野JC）が設立されて今年で69年になります。我々は10年に一度ビジョンを立て運動を推進していきますが、今年はそのための振り返りの年であり、かつ70周年と

いう節目を迎える来年度へのつなぎの年です。

スローガンは「PAY IT FORWARD」**（動け、すべては未来のために）」**としました。言葉に込めた想いは2つあります。ひとつは「恩送り」です。長野JCはこれまで所属していた諸先輩方、地域の方々に69年間にわたり様々な恩を受けてきました。そのおかげで我々は組織を存続でき、今このまちで様々な運動を起こせています。そこで、皆様からいただいたご恩を直接その人に返すのではなく、そのご恩を新しいかたちにして未来へ向け、次の世代に渡していこうと考えました。

**もうひとつは「先払い」です。我々の運動にたとえ今は見返りがなくても、次の世代のために自ら進んで何かしてあげる気持ちを大切にしたいです。**これら2つの意味をしっかりと意識して、この1年間事業を推進していきます。

コロナ禍のため厳しい世の中ではありますが、今やっていることは、自分自身の未来のためであ



## 中川 大三氏

公益社団法人長野青年会議所2022年度理事長

飯島建設株式会社代表取締役副社長

昭和57年7月5日生まれ。カルフォルニア州立大学ノースリッジ校卒業後、平成28年飯島建設株式会社、令和2年代表取締役副社長就任。平成28年長野青年会議所入会、平成31年未来ビジョン委員会委員長、令和2年副理事長、令和4年理事長就任。

# これまで地域の皆様からいただいたご恩を 新しいかたちにして次の世代へ送るために 未来のためのまちづくり、人づくりを進めます

千載一遇のチャンスOfYearです。萩原新市長も長野市の意義を、世界を舞台にして考えるなど国際的な視点をお持ちです。ぜひ行政をはじめ、あらゆるパートナーとともに一体感をもってまちづくりを進めていけたらと期待しています。

**SDGsの推進では、環境に関わる課題だけは今取り組まねば取り返しがつきません。**循環型社会も脱炭素社会も自然共生社会も、市民一人一人の具体的な行動があつて実現できます。現代に生きる私たちが未来への責任を自覚し、地域社会から環境に対するムーブメントを起こします。

コロナ禍の影響で世界や地域が目まぐるしく変化するなか、既存の価値観に囚われない創造的な発想で新たな時代を切り拓くことが求められています。ただ近年日本では、アントレプレナーシップ、すなわち企業家精神を持つ人材が少なく、各方面で競争力の低下が指摘されます。**新たな価値観やイノベティブな発想を持ち、リスクに挑戦し、持続的に事業を展覧させていくマインドをこのまちへ呼び起こすことで、長野の持続可能性を追求します。**

青少年育成事業では、社会人基礎力の養成に力を入れます。日本の生産年齢人口は減少を続け、今後根本的な人的資本不足が予測されます。これを海外からの労働力で補うにも限界が

あります。人口が少なくなると、生産性を高めることで競争力向上を図る道を我々は探るべきです。今こそ、これから社会を担う世代に対し、**個々の社会人基礎力を向上させ、未来に活躍するリーダーを育成する時だと考えます。**

## JCでのつながりは人生を豊かにする

—— 対内的にはどんな事業をしていますか。

中川 最大の課題はやはり会員減少です。**10年前に267名だった会員が、現在半分以下となり、長く所属できる人も減っています。**そこで、例年10あった委員会を8にし、1委員会あたりの人数を増やしました。また、会員一丸となつて仲間を集うべく拡大戦略特別委員会を設けました。正副委員長こそ専属にしましたが、あとのメンバーは他の委員会から出してもらっています。さらに、副理事長のうち1人をこの委員会の専任にしました。それだけ危機感を持つて力を入れてる事業です。

**広報について本年度は、どれだけの市民に我々の想いを乗せた情報を届けられるかに重きを置きます。**伝わる広報とは何か常に問いながら、SNSなど先進的な広報発信手段も取り入れつつ、青年らしく足を使うことで、人間同士の関係構築が実を結ぶ広報活動にも努めていきます。

り、地域の方々の未来のためであり、お年寄りの未来、子どもたちの未来のためでもあります。素晴らしい未来のために我々に何ができるか、自分たちの判断や決断は未来に資することなのか、常に問いながら、事業を計画し実施していきます。

## 西 鶴賀地域の活性化や人材育成に注力

—— どんな事業に力を入れていかれますか。

中川 例年のない発想で色々なことにチャレンジする年にします。

対外的にはまず、長野商工会議所様も構成員である（株）まちづくり長野とも連携して西鶴賀地域の活性化事業を計画しています。あの地域は市街地に唯一残されたノスタルジックな古い街並みです。古くから住まわれている方と新しい住民の方の文化がうまく折り合うことを目指し、**ここを新旧文化の発信拠点にして、地域の方をはじめ、長野市街地にお越しの方が善光寺さんの次に立ち寄りたくなるような流れをつくりたい。**具体的には、この地域を5月に歩行者天国にします。また、お店を全てオープンテラスにしてもらい、新宿でいえばゴールデン街のような横丁の雰囲気を出します。長野市の活気を表すフラッグシップのような地域にできたらと願っています。

現在、新型コロナのパンデミックと渡航制限で、インバウンド数は99%以上ダウンしています。インバウンド需要がいわばリセットされている状況の今、渡航が再開されたとき目的の地として選ばれる場所であるために何ができるか考えていかねばなりません。**市民のグローバル化への理解を深める事業や、飲食店の多言語化等を検討しています。**善光寺御開帳が開かれる今年、長野にとつて

会員の質向上にも力を入れます。長野JCのメンバーとしての資質、同時にこの社会を担う青年経済人が備えるべき資質、その両面をともに高めるため、**アダプティブリーダーシップ、つまり適応力を備えたリーダーシップ養成を目指します。**

残念ながら長野灯明まつりは中止となりました。長野びんずるも2年間開催できていません。**長野びんずるは長野の夏に活気を与えるお祭り**として、市民の皆さんがとても楽しみにしてくださっていますし、長野JC会員にとっては自己成長の貴重な機会の一つです。コロナの収束を祈るしかありませんが、開催するとすれば前向きに、万全の感染対策を講じて長野の夏を盛り上げます。

最後に、紙面をお借りして読者の皆様にお願ひがあります。皆様の事業所にいらっしゃる若い力をぜひ長野JCに預けてください。長野JCには多種多様な職種、立場の人材が集まっています。いろんなことを同じ目線で腹を割つて率直に言い合える仲間がいます。明るい豊かな社会の実現を目指し、奉仕、修練、友情という3つの信条を持つて、**共に行動し時間を共有することで生まれるかけがえのないつながりや自己成長は、必ずや人生を豊かなものにします。**仕事に戻つてもきつと大きな糧となります。一人でも多くの方の入会を心よりお待ちしております。

## 中川 大三さんの横顔



コロナ禍であまり外出はままならないが、休日は家族4人で温泉や釣りに出かける。